一生勉強、一生青春
—経営の勘所を考える—

開倫塾
塾長 林 明夫

1. 経営の勘所とは何か。私は、経営者としての自覚をもって学び続けることと考える。
2. 経営者としての自覚をもつには、経営とは何かを自分のことばで定義することが大事だ。
3. 私は、経営とは営みを経て目的や目標を達成することと考える。目的とはゴール、つまり最終到達地。目標とはゴールに至るまでに通過しなければならないマイル・ストーン、つまり一里塚。最終到達地に向かって1つ1つの一里塚をクリアする営みが経営だ。
4. 経営者としての自覚をもつとは、この最終到達点をはっきりさせた上で、自分にも言い聞かせ、社員全員と共有することだ。経営理念として文字として表し、何千回、何万回と労をいとわずに全社員に浸透させるのが経営者の最大の業務と、私は信じて疑わない。
5. 経営者として学び続けるとは何か。企業は原則倒産。昨日のように今日があり、今日のように明日があると考えていたら、明後日はない。世の中がどのように変化しているのかを学び続けることが、現代の経営者すべてに求められる。
6. 経営者は国内にこもってはならない。少なくとも年に5～6回以上は海外に出るべきだ。できれば、毎月1回は海外に出て、自らの企業の行く末を考えることを経営者としての義務的事項、基本動作とすべきだ。
7. 経営者として海外に出掛け一体何をしたらよいのか。来たるべき時代をどう迎えるべきか、目をカッと見開き考え抜くことだ。
8. 考え抜くべきは、自社の国際競争力をどう強化するかだ。新興諸国のどこで誰と組み、何をどうするか。誰に何を担当させるべきか。ゆくゆくはグローバル人材をどう確保し育成するかだ。とりあえずは、海外からの留学生を正社員として雇用し、じっくり育成することをお勧めしたい。
9. どんな状況になっても、経営者があきらめたらおしまいだ。自己責任、自助努力、自分の未来は自分で切り開くのが経営者だ。「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)。明るく、元気よく経営に励もうではないか。

— 2011年11月27日記 —